

平成25年10月24日

各 位

株式会社日本トリム

代表取締役社長 森澤紳勝
 (コード番号：6788 東証第一部)
 お問い合わせ先
 経営企画部長 田原周夫
 (TEL：06-6456-4600)

第2四半期連結業績予想と実績の差異および通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成25年4月25日に公表いたしました平成26年3月期第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年9月30日）の業績予想と実績の差異及び通期（平成25年4月1日～平成26年3月31日）の業績予想（連結）の修正について下記のとおりお知らせいたします。なお、今回の業績予想の修正とともに、配当予想の修正につきまして「平成26年3月期配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」を、本日、別途プレスリリースしておりますのでご参照ください。

記

1. 業績予想と実績値との差異

平成26年3月期第2四半期（累計）連結業績予想数値と実績値との差異
 （平成25年4月1日～平成25年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 6,142	百万円 1,414	百万円 1,455	百万円 902	円 銭 105.99
今回発表予想 (B)	6,615	1,730	1,940	1,390	165.66
増減額 (B-A)	473	316	485	488	—
増減率 (%)	7.7	22.3	33.3	54.1	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成25年3月期第2四半期)	5,567	1,247	1,301	791	92.39

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、平成25年3月期期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

2. 平成26年3月期通期連結業績予想数値の修正

（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 12,006	百万円 2,629	百万円 2,700	百万円 1,674	円 銭 196.70
今回発表予想 (B)	13,000	2,950	3,200	2,240	266.94
増減額 (B-A)	994	321	500	566	—
増減率 (%)	8.3	12.2	18.5	33.8	—
(ご参考) 前期実績 (平成25年3月期)	10,690	2,184	2,440	1,526	179.31

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、平成25年3月期期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

3. 差異および修正の理由

(1) 第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日～9月30日）

<ウォーターヘルスケア事業>

コア事業である家庭用医療機器 電解水素水整水器の製造販売事業は、主力である職域販売（DS・HS事業部 DS）で、一説明会当りの販売台数を重点指標として、iPadによる映像を活用したプレゼンの導入等による販売効率の向上に取り組んだことなどにより、6月に単月で過去最高の販売台数、売上高を計上するなど、業績は期初計画に比べて高い水準で推移いたしました。当分野の第2四半期連結累計期間の売上高は6,244百万円、営業利益は1,430百万円となりました。

<医療関連事業>

（遺伝子診断分野）

遺伝子診断分野事業は、期初におきまして、好調な受注の継続性が不透明でありました為、保守的に計画しておりましたが、安定した売上を計上することができました。当分野の第2四半期連結累計期間の売上高は369百万円、営業利益は281百万円となりました。また、為替差益として140百万円を計上しております。

上記の結果、第2四半期累計期間の売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益が当初計画を上回りました。

(2) 通期の連結業績予想

当第2四半期連結累計期間の実績を踏まえ、通期業績予想を上記の通り修正いたしております。

<ウォーターヘルスケア事業>

本年8月、今後の成長による更なる業容拡大を視野に、本社を大阪市北区梅田ハービス ENTに移転いたしました。また、本年9月に3事業所を開設いたしました。それに伴い、当下半期以降の一般管理費の増加を見込んでおります。新規事業所につきましては、当下半期より徐々に収益に貢献してまいります。今後も、将来の飛躍的成長を目的に、拡大路線にのった先行投資として新規事業所開設並びに増員を実施していく方針です。現時点では、当分野の下半期売上計画は据え置いております。

<医療関連事業>

（遺伝子診断分野）

長年にわたる研究開発期間を経て事業が拡大期に入って来たことから、本年10月に、体制強化、日本市場への本格的参入、そして近い将来日本での株式上場を目的に、大阪市に新事務所を開設いたしました。米国におきましても、営業や管理体制強化のために増員していく計画をしており、当下半期以降、先行投資としての一般管理費増加を見込んでおります。一方、当下半期売上計画につきましては、現時点で最低限見込める受注数をもとに保守的に策定しております。売上高に占める一般管理費の構成比は大きくなりますが、今後、当分野の業績は急拡大していくことが期待され、一時的なものと考えております。

（再生医療分野）

当社は、本年9月9日付プレスリリースのとおり、株式会社ステムセル研究所を連結子会社化いたしました。当期連結業績への寄与は第3四半期からとなりますが、のれん償却費等が発生いたします為、損益への影響は軽微であると考えております。

今後、修正の必要が生じた場合は、速やかに公表させていただきます。

なお、上記業績に関する予想数値は、発表日現在において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後、様々な要因により当該予想と異なる可能性があります。

以上